

2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/26

<p>団体名</p>	<p>認定NPO法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>シングルマザー家庭の子どもたちの生きる力を育む「WACCA子ども基地」事業</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、「困難を抱えている女性や子どもたちが、自分らしくのびのびと生きられる社会」である。 特に、シングルマザー家庭の支援を親と子の双方向から行っている拠点である「WACCA（わか）」には、DV家庭で育ったり、やむを得ない転居等により地域社会・学校といったコミュニティからの孤立や経済的困難を抱えたりなど、複合的な課題を持つ子どもたちが来ている。 そういった子どもたちが見守る場や人につながり、安心して自分らしく成長し、大人になっていく社会を目指す。</p>		<p>あそび基地やWACCA塾の様子</p>	
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体は、1992年の設立以来、DVについての相談も受けるようになり、力によって支配され、自分らしく生きられない女性や子どもたちに多く出会ってきた。 また、女性や子どもへの暴力防止や支援を行う中で、シングルマザーの貧困や孤立、そして子どもたちが育つ上で様々な解決困難なハンディを背負っている現状を目の当たりにするようになった。安心して本来の自分を取り戻し、生活再建へ動き出せるようにと、上記のビジョンを設定した。</p>			
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドレイジングを担うスタッフが現在より一名以上増え、「WACCA子ども基地」事業はじめ団体全体の安定した運営を支えている。 ・課題解決型と伴走型の支援をどちらも行える常勤の支援スタッフが在籍している。 ・学習支援・あそび基地のボランティアスタッフが増加し、安定した支援が行える。 ・学習支援において必要な教材が整っている。 ・寄付金や事業収益による自主財源を多く確保している。 ・子どもたちの進路・成長に関して、事業に関わる人達から相互に情報が得られる。 ・ボランティアスタッフを通じて社会課題に対する認識と理解が社会へ浸透する。 			
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>DV、虐待、孤立など重層的な課題・背景を抱える母子家庭の子どもたちには、安心安全だと思える居場所や人の存在、子どもだけでなく親も支えるという家庭をまるごと支援することが不可欠である。 本助成では、主に母子家庭の子どもたちを対象とした居場所・学習支援事業「WACCA子ども基地」を実施し、WACCA塾では延べ2,173名の小中学生に学習支援を提供し（143回実施）、あそび基地では延べ93名の子どもたちに体験機会を提供し遊びを通して成長を見守った。また、母親向けにはシママカフェを9回実施し、母親同士の交流と孤立解消を図った。更に、団体の活動基盤を安定化させるため、情報発信を強化した。他機関・他団体と支援の連携・協働に繋げるためシンポジウムや研修を開催したほか、活動を支えるボランティア育成に注力した。 より良い支援を目指す中課題はあるが、ある子どもは学校には行けていなかったがWACCAには通い続け、最終的には「行きたい高校がある」と自ら進路を選ぶことができた。本助成による事業を通して、事業課題であった他機関・他団体との連携・協働ができるようになったのも成果である。</p>			<p>●学習支援「WACCA塾」 ①開催 143回実施 延べ2,173名参加 ②「継続的な学習習慣」という目標の達成状況は下がってしまったが、「大人との関わり増加」は達成された。 ●あそび基地 ①開催 12回実施 延べ93名参加 ②周囲の大人や子ども同士の関わりが増え、地域で協力してくれる団体も増えた。 ●シママカフェ ①開催 9回実施 延べ52名参加 ②スタッフやボランティアとの情報交換や交流は増えたが、母親同士の交流という点では課題が残った。 ●活動基盤の強化 ①シンポジウム開催1回、ボランティア研修1回、情報発信・研修会2回、評価測定 ②研修や日々のコミュニケーションにより、ボランティアのシングルマザーとその子どもの現状に対する理解が深まった。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●今まではイベントを開催するにしても自団体だけで企画・実行していたが、助成事業を通して他団体との繋がりをつくる事ができた。 ●親子イベントや研修・シンポジウムを開催するにあたり、一部マニュアルを作成することができた。 ●地域で子どもだけでなく家庭をまるごと支える、他機関・他団体を巻き込んだ支援ネットワークを構築するためのベースができた。 ●一連のアンケート調査を実施することにより、利用者やボランティアのニーズや価値観を把握し、支援の向上、ボランティアやスタッフに育成に役立てることができた。 			<p>当団体のビジョンとミッションを踏まえ、今年度は、「WACCA塾」「あそび基地」「シママカフェ」を実施したが、以下の課題が明らかになった。 学習支援「WACCA塾」事業では、子ども同士や大人との会話や交流が増え、見守りが必要な子どもたちの居場所になっていることが感じられたが、学習習慣の定着は課題として残った。「あそび基地」事業では、母子や団体を地域の人々と繋げるため、地域に根ざした活動の拡大や、発達に課題のある子どもなど多様な子どもへの対応が今後の検討課題である。また、「シママカフェ」事業では、母親同士の交流が進んでいない場合もあった。母親同士の交流の場は今後も行っていきたいが、参加者の中には過去にDVや虐待を経験している方もいるので、寄り添いながら、参加したいと思えるものに自由に参加できるような仕組みをつくっていきたい。</p>	
<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>母子家庭の子どもたちへの学習支援や安心できる居場所の提供、他機関・他団体との連携・協働の強化</p>
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>を達成しました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭や学校での悩みやちょっとした出来事をスタッフやボランティアに話してくれるようになった。 ●あそび基地を通してWACCAに繋がった子どもと母親がその後学習支援や相談に繋がったケースがあった。